

【1月のテーマ】 もっと知りたいユリカモメ

案内人：木村稔・北村章子（鳥の博物館市民スタッフ）



▲ユリカモメは比較的警戒心が薄く、すぐ近くで観察がしやすい

日本でみられるカモメの仲間は約20種と多くいますが、くちばしや背中の色などで見分けることができます。手賀沼は冬になるとユリカモメやセグロカモメがやってきます。カモメは万葉集などの和歌に出てきたりと人の暮らしと密接に関わってきました。今日はユリカモメに注目してじっくりと観察してみましよう。

2022年1月8日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

年齢を見分けてみよう



ユリカモメの成鳥はくちばしや脚が赤い色をしています。幼鳥のくちばし・脚は薄い黄色やオレンジ色です。また、幼鳥は翼の羽や尾羽に茶色い斑のある幼羽を持ち、前の夏に生まれた個体であることが分かります。

足環付きのユリカモメ



2019年1月
水元公園で撮影

ユリカモメには足環がつけられていることがあります。足環の記録を集めることで、その鳥の寿命や渡りなど様々なことを調べることができます。

◀青いカラーリングに白いLRの文字の足環をつけたユリカモメ。

この個体は2007年12月に幼鳥として手賀沼で足環を付けられたあと市川市や船橋市、東京都水元公園に移動していることが足環から明らかになりました。2019年1月に水元公園で見つかった時は12才であった事が分かります。